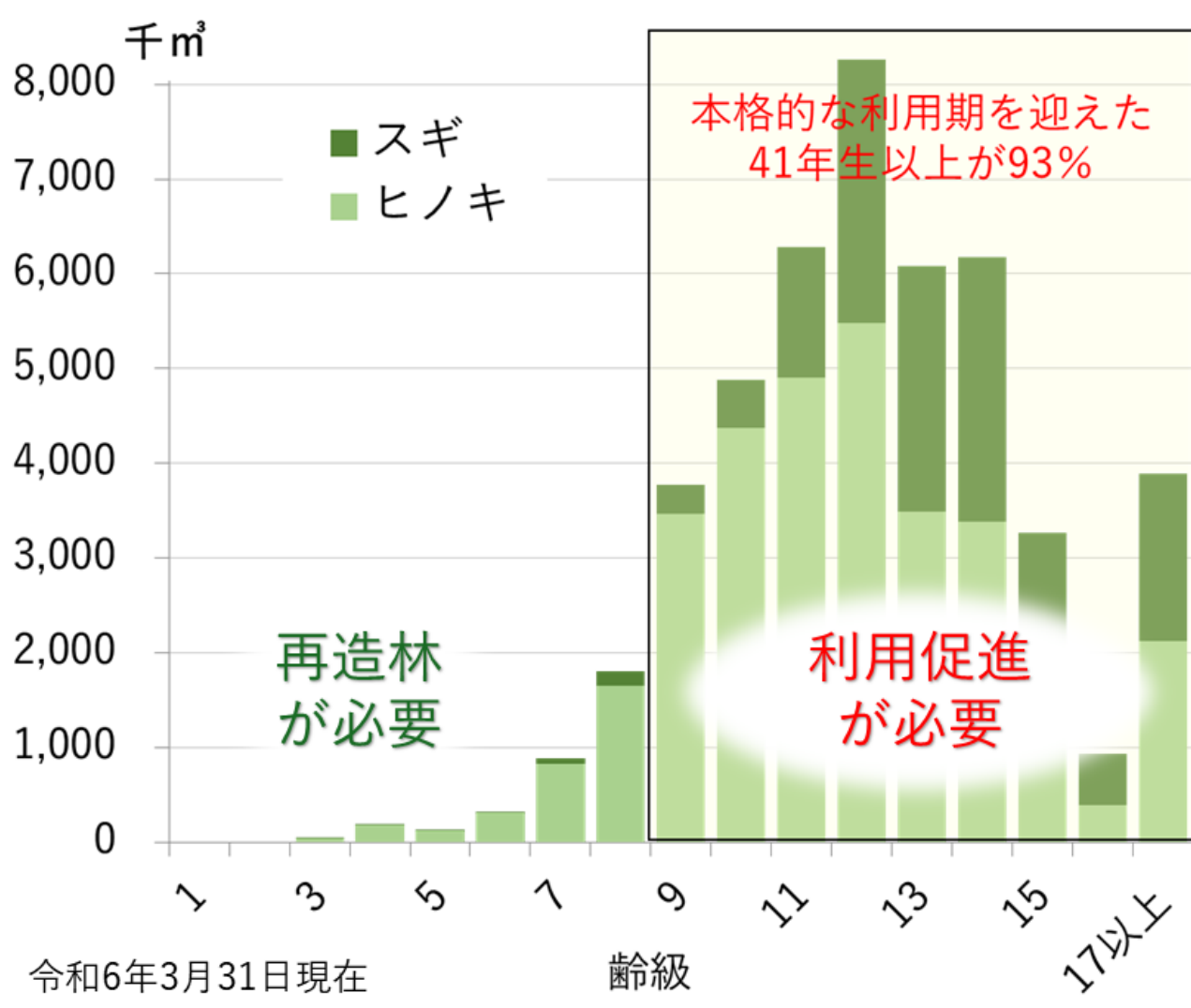


中・大径材の有効活用に関する研究

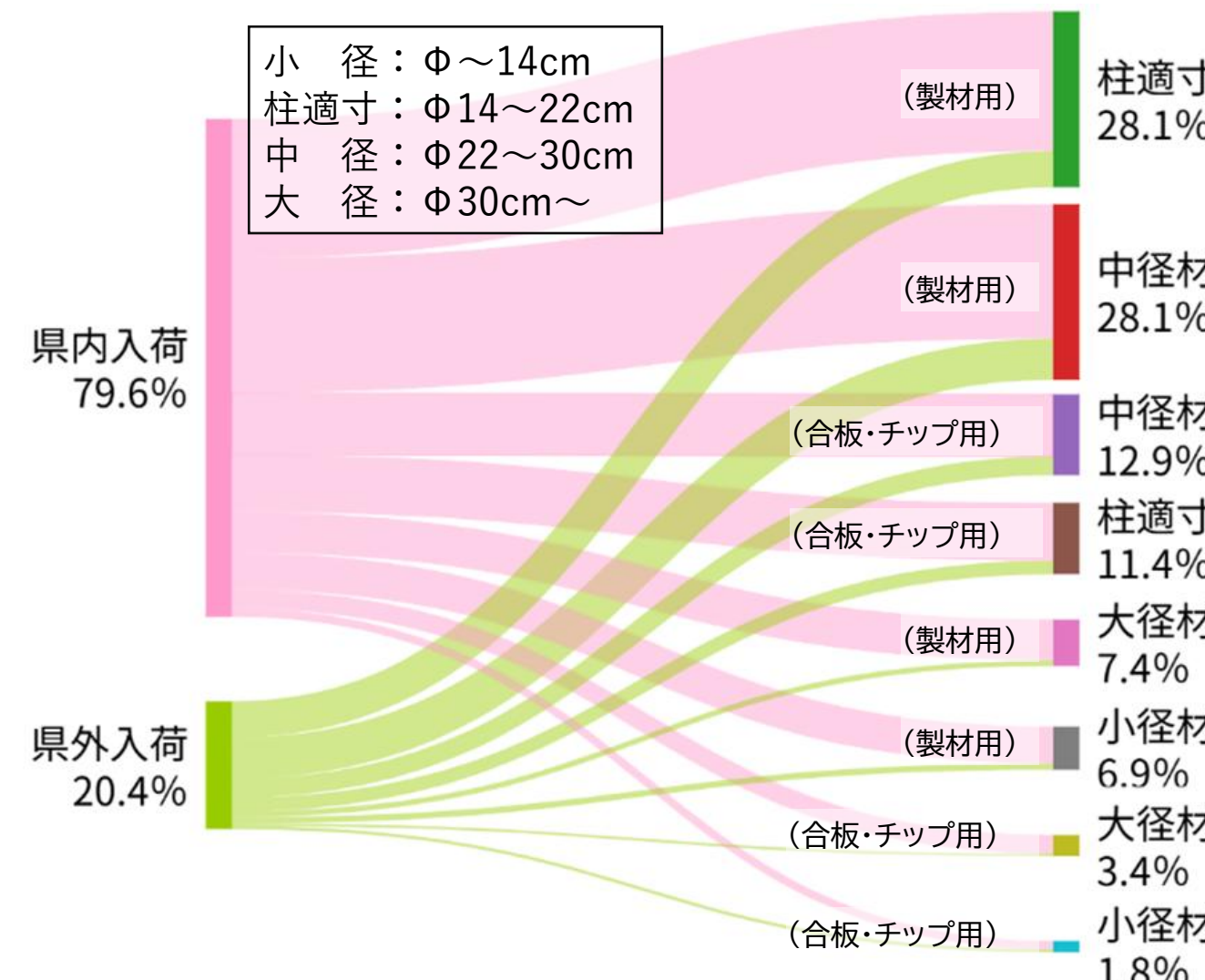
資源量が増えている中・大径材の価値を高める利用技術を検討しています

背景・目的

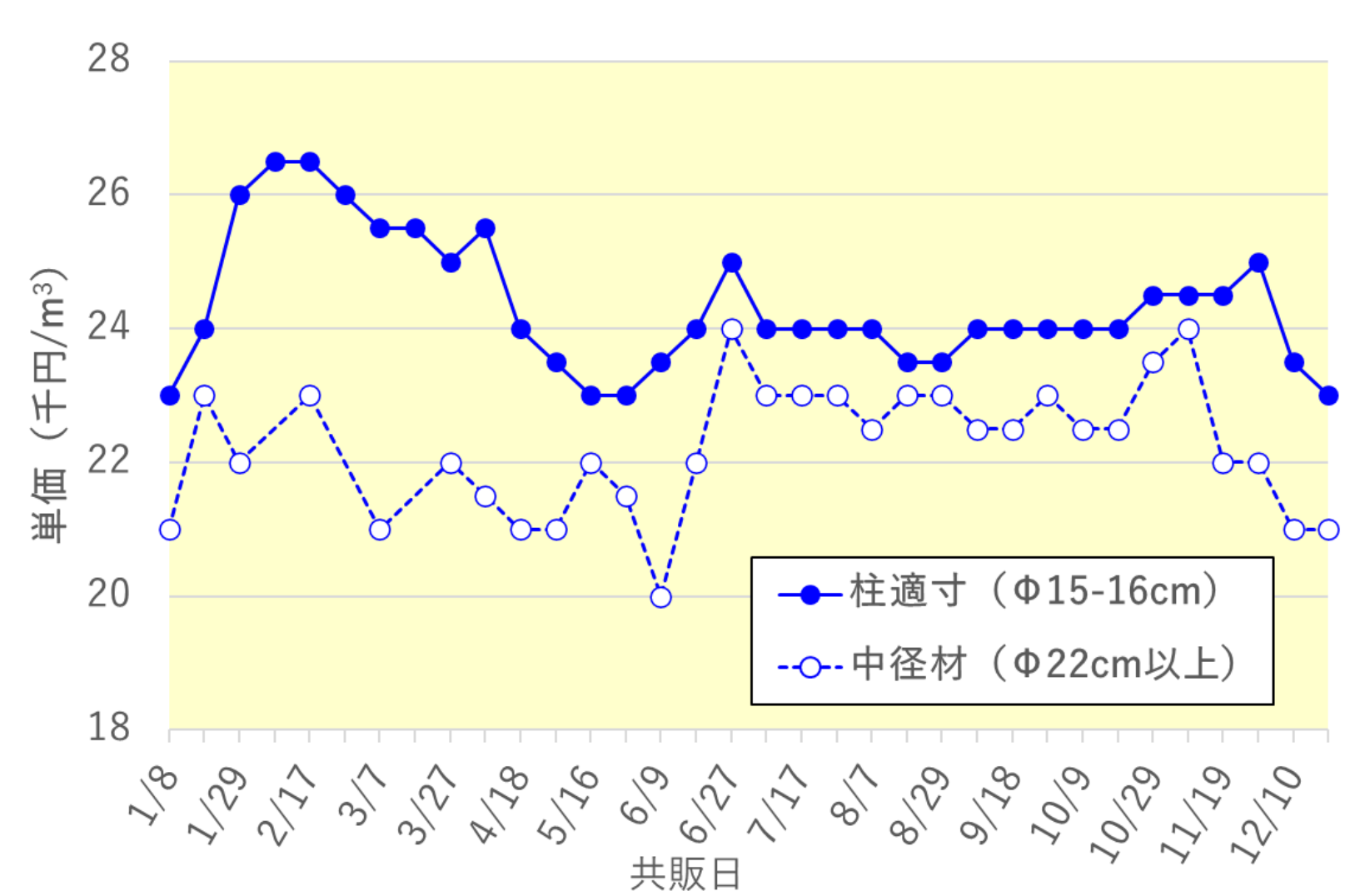
- 人工林の高齢化により中径材（直径22～30cm程度）の流通量が増加していますが、従来、取引の中心であった柱適寸材（直径14～22cm程度）に比較して価格が高くありません。
- そこで、構造材等へ有効活用することにより、中・大径材の価値を高めることが、林業サイクルを循環する上で重要です。



県内の民有林人工林の齢級別蓄積



県北の丸太市場における丸太入荷状況の一例



県内共販所における3m直材取引相場の一例

研究の内容

①丸太の有効かつ実用的な木取りパターンの検討

②心去り構造材等の乾燥技術の開発

心持ち・心去り平角材について、内部割れの少ない乾燥方法の検討・実証を行っています。



実乾燥機による乾燥試験

X線CTによる内部割れ測定
(左：心持ち平角、右：心去り平角)

③心去り構造材等の強度性能評価

心持ち・心去り構造材の各種強度性能を評価しています。



ヒノキ平角材の曲げ強度試験

お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター 森林研究所木材加工研究室
真庭市勝山1884-2 TEL. 0867-44-3367